

京都市大國學經濟學會 經濟論叢

第 一 號 第四十四卷

昭和二十一年一月一日發行

新年特別號

地方營業稅の課稅標準……………法學博士 神戸正雄

固定資本論の一節……………文學博士 高田保馬

土地所有の集中と分散……………經濟學博士 八木芳之助

大都市時代の出現と^{その可}能原因の考察……………經濟學士 中川與之助

經營協議會制度の成立……………經濟學士 大塚一朗

北支日系通貨に就て……………經濟學士 松岡孝兒

アメリカ經濟の發達と通貨論爭……………經濟學士 堀江保藏

統計・統計調査・統計教育……………經濟學博士 蜷川虎三

貿易と生産消費との關係……………經濟學博士 谷口吉彦

新國民主義と國民共同體……………經濟學博士 石川興二

金融の動きと銀行勘定の増減……………經濟學博士 小島昌太郎

新着外國經濟雜誌主要論題

統計・統計調査・統計教育

——經濟統制と統計の問題——

蜷 川 虎 三

政策にせよ經營方法にせよ、すべて社會關係に於いて一定の效果を目的とする行動が、その目的を實現するた
めには、これを可能ならしむる方法手段をとることを必要とすることは言を俟たぬ所である。然らば、かゝる方
法手段は如何にして得られるかといふに、先づ社會關係に於ける合法則性に適從することがその根本的要件であ
らう。假令政策の趣旨として唱へる所が如何に美しく望ましきものであつても、その政策自體がこの根本的要件
を満足するものでなければ、結局それは出来ない相談である。勿論出来ない相談で済めば問題はないが、かゝる
政策を強行すれば、それは意圖とは別の結果を生ずることを考へなければならぬ。而も人は、往々にして、政策
をたゞその趣旨乃至は意圖に於いて問題にして、その結果を問はぬ場合がある。併し政策の目的とする所は社會
關係に對し一定の影響を與へることであつて、若し影響たるその結果と、その意圖とが異なるものであれば、か
ゝる政策は當然否定さるべきである。當今の政策氾濫時代に於いて注意すべき點であらう。

併しこれは一般的にいひ得ること、具體的な問題としては、單にこの根本的要件を満足するばかりでなく、
なほ政策が客觀的事態に適應する方法手段をとることを必要とする。従つてこれが前提として、客觀的事態が科

學的に認識把握されなければならぬことはいふまでもない。「調査」とは、客觀的事態の科學的なる認識把握をいふものに他ならないが、その限りに於いて、政策の重大性の増加と共に調査の重要性の加はることは當然であつて、調査の用意なき政策の如きは、眞面目には考へられぬ所である。

今日に於いては、政策は専ら「統制」の名の下に呼ばれ或は統制經濟を目標とするかの如くいはれるが、謂ふ所の統制にしても、また統制經濟にしても、その内容は極めて漠然たるもので、論者が果してこれに如何なる内容を與へてゐるか改めて問はねば理解し得ぬ所である。併し、それが「自由放任」に對する「統制」であり、「自由放任經濟」に對する「統制經濟」であることだけは明かであらう。従つてこの限りに於いても、政策が經濟關係に對し著しく積極的となり、これに對する國家の關與支配の關係が擴大強化されることは想像し得る所である。政策は是に於いて、從來の保護指導獎勵助成監督といったものから更に以上のものに出ることは當然であるが、同時にまた、政策の基礎としての調査も、從來のそれでは間に合はず、新なる要求に適應するものとして與へられねばならぬことも當然である。従つて政策の基調の轉換と共に、調査が如何に充實整備さるべきかといふことは一個の重要な問題であらう。併し、この調査の重要性、並にその充實整備の現在に於ける意義は、統制經濟などと政策基調の轉換が強調される程には考へられてゐないのではあるまいか。若し然りとすれば、謂ふ所の統制の限界も自ら察し得るものといはねばならぬ。従つてこの意味に於いて、政策それ自體と共に、これに伴ふ調査の部面から問題を見ることも重要であり意義あることといはねばならぬ。

かゝる理由から調査をこゝに問題にして見たいと思ふが、調査は、これをその目的、對象、方法等によつて種

々に區別し得べく、その各個に就いて論及することは容易なことではなく、またその全般に通ずる一般的問題を扱ふことは抽象的に過ぎるを以て、こゝには専ら「統計調査」を中心にし、現在に於ける調査の問題を研究して見たいと思ふ。殊に最近に於いては、統計の整備が單に聲ばかりでなく具體化し、昭和十二年度豫算概算に現れた所によつて見るも、商工業統計の整備に關する經費二八千圓が計上されてをり、また外國貿易統計を整備改善する必要（及び外國貿易の振興に關する施設を整備擴充する必要）を理由として外國貿易統計税が新設されるといはれるなど、現に統計の整備が問題になつてゐる。勿論、統計の整備が果してこの範圍と程度に於いて満足されるものであるか否かは別としても、統計の整備が産業の振興貿易の伸長などの政策に伴つて重要視されて來たことは認めなければならぬ。然らば統計の整備とは具體的に何を意味するか、またそれは如何にして達成され得るかといふやうなことは現實當面の問題でなければならぬ。こゝに、統計・統計調査・統計教育を問題にするのも、またかゝる理由に基くものに他ならぬ。

二

統計の重要性に就いては、一般的には、今更こゝに述べるまでもない所である。併し、政策が一般にその基調に於いて「統制」的となり、殊に經濟統制が必要とせらるゝ情勢の下に於いては、統計の重要性は從來のそれの比ではなく、擴大増加されるものであることを注意しなければならぬ。

經濟統制は、少くともその意圖する限りに於いては、國民經濟力即ち生産力の發展に於ける矛盾の調和である。勿論それが如何なる基準（統制基準）に於いて如何なる具體的目的（統制目的）を定立し、これに對し如何なる

手段方法（統制方法）をとるかによつてその結果する所は自ら異ならざるを得ないであらう。而して經濟統制の實質的内容性質はこれによつて規定される譯であるが、それは今こゝに問ふ所ではない。たゞ經濟政策に於ける「統制」が、かゝる意味に於ける經濟統制として理解される限りに於いて、政策としての意義が認められることを明かにすれば足りる。

而して、その實質的内容性質が如何なるものであれ、兎に角、經濟統制が意圖される限りは、この意圖を満足するだけの必要な手段が講ぜられ、施設が行はれなければならぬ。殊に經濟統制上重要なことは、國民經濟並に國民生活の各部面に就いて、その情勢及び動向が適確に認識され把握されることである。蓋し一方に於いては、どこまでも國民經濟力の發展を企圖し、資源、生産設備、勞働力等の保持涵養強化とその調整とに努めると共に、他方に於いてはこれを阻む諸矛盾との調和を圖り、國民經濟の發展と國民生活の安定とを意圖する所に經濟統制の目標があるからである。従つて、かゝる目的にそひ、これを可能ならしむる所の社會及び經濟の調査の必要なることは言を俟たぬ所であるが、統計もまたかゝる意味に於いて調査され、且つその利用に堪へ得る性質のものでなければならぬ。即ち、經濟統制のために社會及び經濟の情勢或は動向を客觀的に把握し得るに足る統計が與へられることを必要とする。

然らば、かくの如き要求を満足する統計が如何にして與へられるかゞ問題である。この點に就いては、第一に科學的に捉ふべき大量が捉へられなければならぬといふことが根本の要件であるべきことは確かである。蓋し統計は大量を語る數字である、従つて、統計が問題となりまた必要とされるといふことは、客觀的存在たる大量

が數量的に捉へられることを必要とされるからで、これが社會及び經濟の認識把握とその分析のために要求されるからに他ならぬ。ゆゑにこれは全く科學的な問題で、如何なる政策をとらうと政策の如何に關する事柄ではない。全く客觀的立場に於いて、捉ふべき、また捉へねばならぬ大量を規定し、各個大量に就いて、これが性質を明かにすべき集團性の方向を規定すれば足りる譯である。併しこれは決して容易なことではない。蓋し實際問題として飽くまで科學的態度を以て客觀的立場を確守することが必ずしも容易なことでないばかりでなく、理論の貧困が大量並にその集團性の規定に於いてこれを困難ならしむるからである。併しこれは當然克服せらるべき性質のものであり、また克服されなければならぬものである。若しこの要求が拋棄され或は閑却されるならば、結局、正確にして且つ信頼性ある統計は得られないからである。

次に、右の如き捉ふべき大量に就いて、これを數量的に把握する方法が科學的にとられることが必要である。即ち大量觀察の科學的方法がとられ、且つこれが實施されなければならぬ。如何に第一の要件が満足されて捉ふべき大量が規定されても、若し大量觀察の方法に於いて誤るならば、これが結果としての眞實性をもつ統計を得ることは不可能である。併しこのことは、全ての大量觀察に就いて、徹底的に且つ同一程度の科學的方法を要求するものではない。勿論、理論的にはこの要求は當然であるが、實際問題としては大量自體の性質により、或は調査者乃至被調査者の立場とその關係により技術的に困難或は不可能の場合を生ぜざるを得ないから、各個の場合に就いて、統計の眞實性に差異を生ずることは免れ得ない所である。たゞこの場合に注意すべきことは、飽くまで全體の大量觀察、即ち統計調査の全體の關係に於いて、求むる統計の意義と重要性に従ひ、これを決定すべき

で、各個の大量觀察に就き獨立別個に定むべきものではないといふことである。蓋し、然らずんば統計の利用性は著しく制限され、全體的關聯に於いてこれを利用することは殆ど不可能となるからである。

第三に、各個の大量觀察に就いて、大量觀察法の要求する如く、理論的過程並に技術的過程に於ける諸要件を満足しなければならぬことは當然で、改めてこゝに斷るまでもない所であらう。この點に就いては、從來の統計調査に對し要求された所と何等異なるものではない。

併し、右に述べた諸要件は、統計を科學的に求むる限り當然満足さるべき性質のもので、何も經濟統制を行ふ場合に限つた譯では決してない。従つて、從來とても、出来る限りかゝる要件を満足する方向に發展することが望ましいことであつたし、また現にそこに向つて發達したことは事實であるが、政策の樹立實行の上からいへばそれだけの必要もなかつたといふことが出来る。即ち、經濟政策にしても種々なる政策がとられたには違ひないが、それは國民經濟の發展を企圖する限りに於いて方向を同じくするだけで、各個の政策は全く獨立に、相互に有機的聯絡をもつものではなかつた。従つて調査も各個の政策に就いて必要とする限りに於いて行はれ、社會的に經濟的に統一組織されて行はれたものではなかつた。統計も、かゝる事情に於ける調査の所産として、全體として統一あり、一體として社會及び經濟を反映するといふやうな性質のものでないことも想像し得る所である。即ち科學的に見て捉ふべき大量が全て捉へられてゐる譯ではなく、諸種の政策に就いて必要とする程度に於いて、またこれを満足する程度の調査方法をもつて、所要の統計値或は誘導統計値乃至はこれに近似する値が求められ、これらが一團として統計と呼ばれてゐる場合が尠くないのである。従つて統計といはれても、統計と認め

られるものがあり、また認められないものがあり、同じく統計であつても、眞實性に著しく相違があり、また社會或は經濟の觀察上當然必要とさるべき統計を缺いたり、或は有つても不完全で利用性を缺くといふやうなものあることはまた當然といはねばならぬ。勿論、この範圍に於いても、實際的必要に迫られ、出来る限り眞實性のある統計、利用性のある統計を求めることに努力が拂はれて來たことは事實で、いはゆる「統計の改善整備」とは、かゝる意味と程度に於ける改善整備を指すものに他ならぬ。従つてこれが、政策自體の一般的性質と、その實際的必要に制限され、統計に對する科學的要求のみによつてその改善整備を徹底するといふことは困難であつた。

經濟統制の場合に於いては、併し事情は自ら異なつてゐる。勿論經濟統制の實質的内容性質にもよるが、兎に角、各個の政策は全體的關係に於いて統一的に樹立實行されねばならぬ。従つて統計も當然に右の政策に適應するものとして求められ、且つ與へられねばならぬことは明かである。従つてこの場合に於ける統計の改善整備は、單に各個の統計として眞實性を有し、利用性を具へるといふばかりでなく、統計が全體として、社會及び經濟を反映してその情勢と推移とを語り得るだけ充分に與へられ、經濟統制のために利用性をもつものとして改善整備されることを意味する。先に掲げた三要件を満足しなければならぬことも、要するに、政策自體の性質が飽くまで統計の科學的なことを要求するからで、先の場合の部分的制限的となると著しく異なる所である。

この意味に於いて、國家は單に統計調査者としてばかりでなく、統計の全面的な利用者として現れる。從來の如く部分的な利用者ではなく、また從來の如く立憲政治の下に於ける國勢の表示、政策遂行に對する結果の報告として國民の批判の參考として公示提供することのみが統計調査の目的ではなく、國家自らが統計を全面的に利

用し、これを以て經濟統制の遂行に資すべく、そのために統計調査を必要とするといふ關係になつて來てゐる。従つて統計の形式的性質から見れば「經營統計」に酷似することを認めなければならぬ。企業經營者は、經營方法の確立のために、經營成績の批判と實際經營のために經營統計を作らねばならぬ。而してこれがためには、眞實性のある經營統計を得なければならぬことは當然である。併し又、經營者はその統計を經營の信用その他のために投資家に提示し、或は國家乃至は特殊關係に在る團體に報告する義務があり、或はその必要のある場合がある。この場合に於いては、經營者自身が利用者として必要とした調査した統計が、その儘に提示される譯ではなく、その提示の必要の限度にとゞまるべきことは當然であり、企業經營上また必要なことゝいはねばならぬ。併しこのことは虚偽の統計を容認するものでないことは斷るまでもないことである。

經濟統制のための統計も、これと同様な問題をもつことは既に述べた所から推知し得るであらう。即ち國家の利用者の立場に於いては、眞實性をもち且つ充分なる統計が得られなければならないが、併しこれをその儘に全部公表する必要は必ずしもなく、寧ろ國際的關係その他からこれを制限することが必要であらう。現在の如く各國が對立的關係に在る場合に於いて特に然りである。併しこれを以て統計の眞實性を失はしむることを許し、また國民の社會經濟政治に對する理解と批判の眼を蔽ふことを認むることゝ同一視してはならぬ。寧ろかゝる缺陷を生ぜざるために、統計の調査が嚴正であり、統計の公表に就いて充分なる用意をしなければならぬ。徒らに統計公表の危險性を過大視し、その方法を講ずることなく、秘密主義をとることは、統計そのものゝ意義を否定するばかりでなく、虚偽を敢てすることゝなるであらう。

經濟統制に於ける統計のもつ意義並にその重要性が右の如くであるとすれば、少くとも經濟統制を行ふ限り、統計に就いても、それが必要とするが如き方法が講ぜられ、施設が行はれなければならぬ。即ち、統計調査がこれを満足するが如き形に於いて實施される必要がある。統計調査に就いては、これを行ふ方法と、その組織機關とが問題になるであらうが、方法に就いては他の機會に述べたから、こゝには専らその組織機關の方面から述べることとする。

先に述べた所の、新なる意義に於ける統計に就いて調査上要求されることは、それが大量觀察法に従ふべきことは勿論であるが、更に、

(一) 統計が國全體として統一的組織的に求めらるべきこと、

(二) 統計調査が嚴正であり、その眞實性が充分に信用され得べきものであること、

であつた。従つて、統計調査に就いては、政治的乃至はその他の力に動かされぬ獨立の調査機關により、統一的組織的に行はれることが必要である。統計調査は、調査として客觀的事態の認識を目的とする。従つてこれが妨げられるやうな弱小の機關ではその目的を達成することは不可能である。また先に述べたるが如く、統計それ自體の性質に反してその公表は或程度の制限を受けざるを得ない。従つて統計の眞實性がそれにも拘らず妨げられないためには、調査機關の嚴正なる獨立性による國民の信賴が重要である。また調査の方面から見ても、國民がよくこれに信賴して調査に協力し得る信用が重要であり、かくしてそれは、純粹に統計調査のみの機關として機能發揮することが出来る。

また統計調査は統一的組織的でなければならぬから、少くとも國としての統計調査は特定の中央機關によつて

統一されることが必要である。かくして求むべき統計全體が一定の方針の下に調査されることとなり、その眞實性を大ならしむるばかりでなく、利用性の充分な完全なる統計が得られる。勿論、この場合、中央機關がその機能をつくすために如何なる組織をとるか、また從屬機關を如何に設置し、それらとの關係を如何に定むるかといふやうな統計行政上の問題は残るが、いまそれらに就いて言及する餘裕もないし、また本文の目的とする所でもないから、こゝにはその詳細に及ばぬこととする。

然るにこれを我國の統計調査機構の實際に見ると、甚だ小規模であると共に亂雜であつて統一がない。勿論中央統計機關としての内閣統計局は、その所管事務として、「行政各部統計の統一に關する事項」をもつものであるが、一切の統計調査の計畫を立案しこれを實施するといふ意味に於ける積極的な統一ではなく、資源局、農林商工各省大臣官房統計課乃至は各省大臣官房文書課等の中央に於ける統計調査機關の調査に於ける重複或は不統一を防止するといふ極めて消極的なものであるに過ぎない。従つて中央機關として與へられてゐる權限は甚だ狭く且つ小なるものといはねばならぬ。而して内閣統計局に屬する統計調査は、「人口統計、勞働統計其の他國勢の基本に關する統計にして行政各部に專屬せざるもの」に限られてをり、人口統計の調査が大部分を占めてゐる。勿論勞働統計實地調査も行はれてゐるが、勞働統計の調査はこれのみを以て満足されるものではなく、現在その重要性の甚だ大なる勞働統計さへ完全なる形で統一的に與へられてゐないといふ状態である。經濟統制などを全然問題にしないでも、我國の統計調査の機構は決して満足なものではない。況んや今日の如く「統制」の強調される際、かゝる重要な部面が看過されてゐることは遺憾といはねばならぬ。

中央に於ける統計調査機關が分立してゐる結果として、統一的な統計が得られぬことは勿論であるが、同時に

各機關の行ふ調査を不充分ならしめ、而も地方の調査機關の事務を繁多にして且つ能率を低下せしむることが甚だしい。従つて地方行政に於ける必要なる調査などは殆ど行はれず、たゞ中央に於ける諸調査機關の從屬機關として働くだけで力一杯の觀がある。このことは、國としての統計の整備のためばかりでなく、地方のために考へねばならぬことであらう。

これらの問題は少くとも統計を必要とせられる限り、考へられねばならぬ問題であり、また解決を要する問題である。而して統計調査の集中統一化、中央統計調査機關の擴大強化は、決して從來の各調査機關の縮小乃至は廢止を意味するものではなく、寧ろその充實と組織化を圖るものである。かくして各個の機關は更にその能率と成績とを擧げることが出来るであらう。これらの點が看過されてゐるために、統計調査職員の状態を低からしめ、その職責の重大且つ特殊の技能を要する者にも拘らず、それに比して報ひられぬ状態に在ることは、一考を要する所であらう。如何に機關が整備され組織が充實されても、これを運営し、またこれに働く人を得なければ無意義である。人を得るためには、これを獎勵し、その地位に安じて努力し得る條件を與へなければならぬ。

四

統計の發達のためには、上述の如く、統計調査機關の整備、その組織の充實といふことが必要であるが、併しそのみを以て満足し得るものではない。蓋し統計調査は、常に一般大衆の被調査者としての協力を要するものだからである。従つて、大衆が統計の意義と重要性を認識し、進んで調査に協力すると共に、自らも統計を利用し、これを批判して統計調査の進歩と統計の發達に貢獻することは最も望ましいこと、いはねばならぬ。統計教育の意義とその役割とはこの意味に於いて甚だ大なるものがあるが、現狀に於いては寧ろ看過輕視されてゐると

いはねばならぬ。

一般に統計教育といへば、統計調査に於ける専門技術養成のための統計教育、社會科學的教養を與へるための統計教育、社會教育乃至は公民教育としての統計教育に區別し得べきことは曾て述べたが、最後の社會教育乃至は公民教育としての統計教育は最も怠られてゐる所であり而も甚だ重要な性質をもつものである。

統計調査に於いて、國家はその權力を以て被調査者を強制することが出来るが、併し統計の正確性を大ならしむるためには、被調査者が統計調査を理解し、自發的に協力するに若くはない。従つて統計及び統計調査の意義及び重要性を一般に徹底し、且つ大衆の協力如何がその成否を決定することを深く意識せしむることが必要である。この意味に於いて、小學校、中等學校に於ける教育に於いては勿論のこと、一般の社會教育に於いて、かゝる意味の統計教育が考慮される必要があり、またこれに就いて平素の訓練が重要である。學校教育に於いては、修身或は公民科に於いてこの趣旨を説くことが出来るであらうし、また算術や代數或は地理等の科目に於いて統計の利用を通じて、これらを理解せしむることは決して困難なことではない。問題は教育者が如何なる程度に自ら理解し、努力を拂ふかといふことである。併しこれは單に教育者の責任に任すべきものではなく、學校教育に於いて公民教育の精神を實質的にどこまで現すかその指導如何によることであらうし、かうした方面に充分なる材料を提供してその發達を促すかどうかによることであらう。

農山漁村或は都市の商工業に於ける青年の教育訓練は最近盛であるが、この方面に於ける統計教育の方法としては、右の場合と特に區別する必要はないが、特に調査或は記帳の實地を通じて、或は簡單なる統計の利用によつて理解せしむることが有効であらうと思はれる。このために、經濟更生村等に於いて、その更生計畫に際し

その機會を活用していゝと思ふ。併し、實際問題としては指導者的立場に在る者の統計に關する理解の不十分なることを考慮しなければならぬ。

この意味に於いては、専門的な統計教育の充實を考慮しなければならないであらう。現在の實業専門學校乃至は大學に於ける統計教育も決して充分なものではない。殊に實業専門學校の場合、輕視されてゐる方が多いが、實はこれらの學校の出身者が直接の指導的地位に立つので、統計教育の内容は大いに注意さるべきであらう。この點に就いては別に詳論する豫定であるから、具體的な問題はその際に譲つて置く。

要するに、統計調査に於ける一方の擔當者である被調査者に關する部面は著しく閑却されてゐるが、統計の發達を望む限り放置出來ぬ問題であらうと思はれる。その意味で統計教育の必要が考へられる譯であるが、全ての教育がさうである如く、統計教育に於いても單なるお説教や抽象論は無意義である。従つてその方法に就いては充分研究される必要がある。

以上に於いて、經濟統制の下に於ける統計の問題に就いて概括的に述べたが、勿論問題はこれで盡きるものではない。また、統計にせよ、統計調査或は統計教育にせよ更に深く論ぜらるべき性質のものである。併しこゝで特に一般的に問題を見たのは、「統制」が各方面に於いて強調され、これに關する政策が論議されながら、而もそれらの政策の基礎をなすべき「調査」が看過され、殊に統計調査の如きは顧みられる所が少いからである。こゝに提示した問題に就いては、更に詳論する機會があるであらう。